

Nフレックス

低反力タイプの可とう管
Kフレックスに比べて
変位時の反力が約半分



特長 Feature

- 変位時の低い反力により配管を損傷する事はありません。

用途 Usage

低反力が必要とされる配管	塩ビなどの樹脂製配管
--------------	------------

種類 Kind

- 100mm 偏芯用(地上用・埋設用)3山
- 200mm 偏芯用(地上用・埋設用)4山

標準仕様 Standard issue

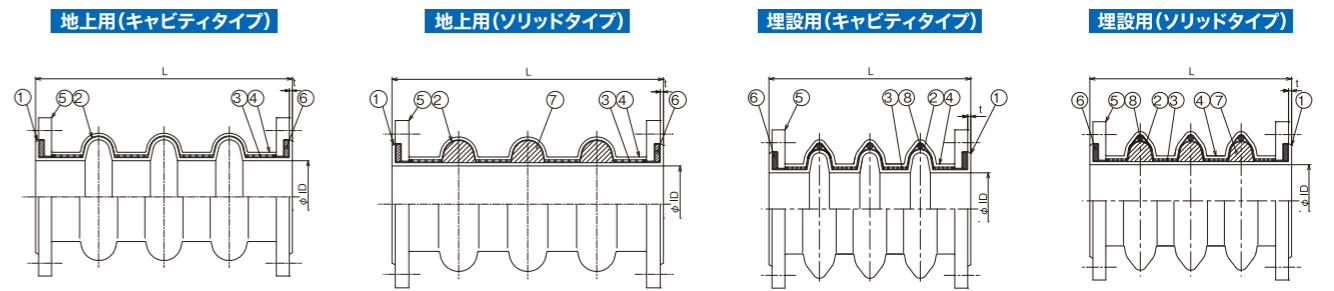
- 最高使用圧力：右記表の最高使用圧力をご参照下さい。
右記表の負圧を超えて使用される場合は埋設用構造をご使用下さい。埋設用構造は-90kPa迄使用可能。
- 最高使用温度：-10℃~60℃
- 設置条件：埋設用を使用する場合は、埋設深さを1M~3Mの範囲として下さい。
また、最大車両重量は25Ton以下として下さい。
- 流体が気体の場合は、最高使用圧力が変わりますのでお問い合わせ下さい。
- 汚水・粉体などの沈殿しやすい流体に適した内面ストレートタイプのソリッドタイプ(埋ゴム)も製作可能です。
- 内圧により発生する軸方向の推力規制や過大变位の防止にはコントロールユニット(タイロッドボルトタイプ)付をご使用下さい。
また、取付時の面間寸法の調整にはコントロールユニット(セットボルトタイプ)付をご使用下さい。(P25をご参照下さい。)

- (1) 加圧・増圧給水ポンプのデリバリ側等、圧力変動の繰返しが頻繁に発生する箇所には使用出来ません。
- (2) 基本的にゴムの弾力性を劣化させる恐れのある流体及び取付箇所では使用は出来ません。
ご使用には検討が必要ですので別途ご相談下さい。

取扱い上のご注意 Handling instructions

- 当製品は、内圧の負荷により反力が生じます。取付配管等には、固定点・サポート等が必要となります。(P26~P28をご参照下さい。)
- その他の取扱い上のご注意はP26~P28をご参照下さい。

構造 Structure



番号	品名	材質	番号	品名	材質
1	内面ゴム	合成ゴム	5	フランジ	SS400, SUS304等
2	補強層	合成繊維	6	エンドリング	SS400
3	補強層	鋼線または合成繊維	7	埋ゴム	合成ゴム
4	外面ゴム	合成ゴム	8	補強リング	SS400

内面ゴムの材質選定については、P25の「ゴムの選定ガイド」をご参照下さい。

- 標準品はJIS10Kフランジを使用。JIS5K、JIS20K、上水、JPI、ANSI等の各規格フランジも対応可能です。
- フランジの材質は、標準品SS400、SUS304の他に、SUS316、SUS316L、S25C等も対応可能です。
- SS400のフランジは地上用が溶融亜鉛メッキ(Znメッキ)・埋設用は黒色エポキシ樹脂系塗装が標準です。別途塗装品も対応可能です。

寸法及び許容変位量 Size

呼称	φID [mm]	t [mm]	100mm偏芯用(3山)				200mm偏芯用(4山)				最高使用圧力	
			L [mm]	伸張 [mm]	圧縮 [mm]	質量 [kg]	L [mm]	伸張 [mm]	圧縮 [mm]	質量 [kg]	内圧 [MPa]	負圧 [kPa]
50A	51	3	350	30	45	4.9	450	30	45	5.2	0.50	-40
65A	64	3	350	30	45	7.0	450	30	45	7.5	0.50	-40
80A	76	3	350	30	45	7.3	450	30	45	7.9	0.50	-40
100A	102	3	350	45	60	9.0	450	45	60	9.8	0.50	-40
125A	127	3	350	45	60	12.9	450	45	60	14.0	0.50	-40
150A	152	3	500	60	60	18.5	600	60	60	19.8	0.50	-40
200A	203	3	500	60	60	22.6	600	60	60	24.2	0.50	-40
250A	254	3	500	60	60	31.7	600	60	60	33.8	0.50	-40
300A	305	3	550	60	60	38.2	650	60	60	40.8	0.25	-30
350A	350	3	550	60	60	47.7	650	60	60	50.7	0.25	-30
400A	400	3	550	60	60	64.0	650	60	60	67.6	0.25	-30
450A	450	3	550	60	60	78.6	650	60	60	82.7	0.25	-30
500A	500	3	550	60	60	89.2	650	60	60	94.0	0.25	-30

- 変位量はアーチ構造がキャビティタイプの場合の値です。ソリッドタイプの場合は上表の値に圧縮の場合は0.5、伸張の場合は0.6をかけて算出して下さい。(偏芯量は変わりません)
- 斜め配管時の変位量は上記値と異なりますのでその都度お問い合わせ下さい。
- 各変位は許容変位量の範囲でご使用下さい。
- 表中に示す各変位量は、単独変位の場合を示しますので複合変位の場合は補正を要します。補正方法についてはP26をご参照下さい。